

みんなの知恵と力をあつめて、部落解放の「ひと・まち・くらし・なかま」づくりをすすめよう!



# 解放

第1342号 2006年5月6日

編集発行：部落解放同盟豊中支部運営委員会

れんさい・部落差別をみつめる・その2 1

## わたし くみ あい ぎょうせい 私を、組合を、行政をかえた「ともしび じけん どうじしゃ おも 事件」～当事者としての思い～

げんこう いらい さくねんまつ すいぶんおそ ころよ ひ う とき わたし  
原稿を依頼されたのは昨年末。随分遅くなってしまいました。快く引き受けた時は「私」  
じしん ふ かえ ちょうど きかい おも ねんまえ しりょう さが  
自身を振り返るのに丁度いい機会と思ったのですが。36年前の資料を探すのがなかなか。  
がつ たいへんもう わけ おも  
そんなこんなで5月になってしまいました。大変申し訳なく思っています。

たなかかずみ

【田中一己】

「ともしび」事件と言われる差別文書を投稿したときも今と同じように原稿を迫ら  
れていました。「一己ちゃん原稿はまだ？あんなだけやがな。」と当時の青年部長から  
さいそく かんが おお かた わたし よ な どうじ か  
催促が。（考えたら多くの方からの私への呼び名も当時と変わっていませんね。）  
おかまちしょうてんがい しょうてん ほうぶんどう にかい きっさ ゆり か あわ  
岡町商店街にある書店「豊文堂」の二階にあった喫茶「百合」に駆け込んで慌てて  
か あ じんるい しんぽ ちょうわ いそ し あ ぜんぜんていねい  
書き上げたのが、「人類の進歩と調和」。急いで仕上げたこともありますが全然丁寧な  
ぶんしよ どうじ わたし いしき かんが かた すなお とうえい おも  
文書ではありません。でも、当時の私の意識や考え方は素直に投影していたと思い  
ます。世間ズレしていない。人の気持ち次第で世の中が変えられると思っている甘ち  
やんらしさが出ています。まあ、あの時から36年経った  
いま あま のこ  
今でも甘～いところはいっぱい残っていますが…。

今でもはっきり覚えています。5月の連休明けに机の  
うえ お まあたら かみ にお ただよ  
上に置かれた「ともしび」からは真新しい紙の匂いが漂っ  
てきました。まずは見開き2ページ分の私の投稿文に目  
ばんばく おな  
をやりました。万博のテーマと同じタイトルだったので、  
たいよう とう の わたし ぶん  
「太陽の塔」のイラストが載せてある。この私の文が



さべつ おも  
「差別」だとは思いませんでした。

それから数日後、教育長室への突然の呼び出し。「何故この文書を書いたん？」  
きょういくちょう どう わ たいさくしつちょう どう わきょういくかちょう  
教育長や同和対策室長、できたばかりのセクションの同和教育課長がそこにいま  
した。

しつもん い み りかい たし わたし おも か ふう  
質問の意味が理解できず、確か「私の思いをそのまま書きましたが…」そんな風に  
い きおく ふんしょ さべつふんしょ してき う ほんにん  
言った記憶が…。『この文書が差別文書であると指摘を受けている』『あなた本人のこ  
ともあるが、所属の教育委員会と編集責任者の市職員組合の姿勢が問われている』  
『あなたには、タブーになっている部落問題を触れたことの勇氣は…。』と。勿論  
ゆうき あわ が す かいしゅう  
「勇氣」もなにも、慌てて書いたに過ぎなかったが。この「ともしび」が回収され、  
しょうきやく ば き はなし き ど にち で  
焼却となることもその場で聞かされました。話を聞きながらも、土・日に出かけ  
だいせん き じぶん  
る大山のことが気になっている自分がそこにありました。

せんりきゅうりょう かいまく にほんばんこくはく わたし なに うった  
——千里丘陵で開幕した「日本万国博」、それは私たちに何を訴えようとして  
がいくじん まつ おこな にほん ばんこくはく まった  
いるのか。外国人は、このはなやかな祭りの行われている日本で「万国博」とは全  
こと すがた き ぶらくもんだい もっと みちか  
く異なるみにくい姿のあることに気づくだろうか。部落問題は、その最も身近な  
れい おな ちいき う  
例であろう。同じ日本人でありながら、たまたまその地域で生まれたからといって、  
せけん つめ ふりえき くわ にんげん じぶん しょうがい  
世間は冷たくあしらひ、いろんな不利益を加えているのである。人間が自分の生涯  
い ぬ あいだ ふこう とき ほんらい にんげん  
を生き抜く間には、どんな不幸がおとずれるかわからない。そんな時、本来の人間  
ふこう おちい すく ほんとう  
なら不幸に陥った人をなぐさめ、救ってやるのが本当ではないだろうか。——

よくしゅう きょういくいいんかい しょういんぜんいん たいしょう けんしゅう ふつか  
翌週には教育委員会の職員全員を対象にした研修が二日に分けておこなわれ  
すべ つくえ うえ しょうく ちやしゃ わたし な け じんらい しんぼ ちやうわ お  
ました。全ての机の上に、所属と著者(私)の名を消した「人類の進歩と調和」が置か  
けんしゅうさんかしゃ め とお なに かん と だれ こた  
れている。研修参加者が目を通す。「何か感じましたか」の問いに誰も答えるものが  
い ぶんいき わたし おな もんだい  
いませんでした。言える雰囲気ではなかったのか？それとも、私と同じでどこが問題  
りかい さだ やくしよ はい ねん けいか  
なのか理解すらできていなかったか、定かではないが…。役所に入って3年が経過し  
けんしゅう はじ  
ていましたが、研修は初めてでした。

こうせいだんかい してき と いっぽう がわ  
そして、「校正段階で指摘すらしなかった」ことが問われた『もう一方の側の  
とうじしゃ し しょういんくみあい ぶらくもんだい まじめ とうぎ つづ  
当事者』＝市職員組合も、初めて「部落問題」での真面目な討議が続くことになり  
わたしじん ちやくせつ かか にん さいしよ ころ きわ きやっかんてき たちば さんか  
ます。私自身は直接の関わり人なのに、最初の頃は、極めて客観的な立場で参加し  
ていました。

へんしゅういいんかいほうこく とうじ ようす けいか ふ  
「ともしび」編集委員会報告から当時の様子と経過をここで触れてみることにし

ます。

まず、5月8日に部落解放同盟から抗議と善処方の要請。「ともしび」35号の発行元である市職青年婦人部が「回収」するに至った経過・見解を12日にニュースで明らかにしています。そこには、「筆者の意志とは裏腹に考え方がなぐさめ、救ってやる。という部落の人たちを本質的に解放するという視点ではなく、同情主義・融和主義から」「原稿整理、校正段階で未然に防止できずそのまま印刷・発刊したことの重大性」「この問題についての認識と自覚が欠けていた」それらの反省から回収の結論を出したこと。組合自らの基本的誤りを心から自己糾弾するものである。とし、今後は部落問題に関する学習活動・研究活動をおこなっていくとしています。



さらに、6月13日には一連の論議経過を踏まえた「ともしび臨時号」が出されました。その中で「いわれて気がつく」「回収は正しかったか」「表現の自由を守ることとの関わりは」といった率直な意見を載せ、かつこれらの克服は「差別者であることの認識から新しい自己の創出を」と締めめています。

組合も行政もそれぞれの立場で、部落解放の課題に積極的な関わりが始まっていますが、当の本人は一步遅れてついていくという状況。周辺から「あれは差別文書ではなく、表現がまずいだけ」「いややはり上から見下ろしている」「対等な立場じゃないわな」…との声が入ってくる。事の重大さに気づき始めた頃に溝口書記長(現市議会議員)から言われた「痛みは踏まれたものでしかわからない」という一言が私の中に強く残ることに。

それからは研修があればあっちへこっちへと進んで参加しました。おかげで多くのことを学びました。歴史も現実の差別も。蛭池公民館で前田さんに出会ったのもその時期です(蛭池支部が誕生する前)。しかし、学んでいるうちに大きな壁にぶちあたりました。それは「私と部落問題との接点は」という疑問。

「私にとって部落問題」とは？それは1年後の夏に参加した高野山での夏期研修で解けました。そこで出会った「三つの命題」。浅田理論に大賀さんが加えたとされ



ねん かいほうどうめい あき りろん め  
る71年に解放同盟が明らかにした理論です。目からうろこでした。

①部落差別の本質は、主要な生産関係から除外されていること。

②部落差別の社会的存在意義＝封建社会では農民の搾取と圧迫をほしいままにすることと、反抗をおさえるための安全弁に。資本主義でも変わっていない。部落民を労働市場の底辺を支えさせることによって、経済的には一般労働者の低賃金・低生活の「しずめ」の役割を果たさせる。政治的には部落民と一般労働者との対立構図を果たさせる。

③社会意識としての部落民に対する差別観念＝差別社会では本人が意識するしないに関わりなく、空気を吸うように差別意識は注入される。

じぶんじしん おお か  
自分自身が大きく変わっていくことになり  
ます。一緒に働いているのに職種によって  
ちんぎん ちが きゅうりょうひょうじたい さべつせい き  
賃金が違う。給料表自体の差別性にも気づ  
くようになる。「差別」があらゆる形で息づ  
いていることがみえてくる。まずは青年部の  
ごやく はい ちんぎんせいど むじゅん さべつちんぎん  
五役に入り、賃金制度の矛盾を差別賃金の  
てっぱい さやまとうそう  
撤廃としてとりくむことに。そして狭山闘争



へ。「ともしび」、それは私自身の一つの原点であり、多くの人との出会いのはじまりでもありました。また、さまざまおこる諸現象に対する見方も育ててくれました。

かいしゅう やくしょ くみあい ぶらくかいほううんどう ふか かか き かい  
「回収」、それは役所がそして組合が「部落解放運動」に深く関わる機会になった  
ことはいうまでもありません。また、差別社会において「差別文書」を放置すること  
ぜにん くうき つく だ てん だとう そち  
は、是認する空気を作り出すという点からも妥当な措置だったといえます。しかしな  
がら、「回収」というインパクトが強く、『何が問題で何を克服すべきか』というこ  
たが きょうゆう きょうざい ゆうこうかつよう てん  
とを互いが共有することができたのか。「教材としての有効活用」という点からの  
ろんぎ てん そうかつ ひつよう き わたし ぶんしょう  
論議はどうであったか。そういう点からの総括が必要な気がします。また、私の文章  
のために、見てもらうこともなく共に没にされた多くの投稿文があったことを忘れて  
はいけないと思っています。

わたしじしん き さべつ き も ひと きす  
「ともしび」が私自身を気づかせたこと。差別なんかする気持ちはない。人を傷つ  
けるつもりはない。しかし、何かに直面した時にふと顔をだす。差別社会は知らず知

らずに人々の心の中に深く浸食している。だから、気づいたことは語る。尋ねる。  
ひょっとしたら、私の言動で傷ついている人がいるかも知れない。その時の指摘を  
素直に受け止める。その姿勢を失わないこと。それが、「私のともしび」そのもの  
だから。

田中さんの文章を読んで思うこと

## 36年の時を隔てて、変わったものと変わらないもの

【佐々木寛治】

田中さんも書いているように、原稿を依頼したのは12月の社民党の忘年会の席だ  
ったから、かれこれ4カ月あまりになる。でも、忘れずにいてくれたことがうれしい。  
そして、とりあえず、この「れんさい」が21回をかぞえ、再開できたことが二つ目  
にうれしい。

「ともしび事件」については、この「れんさい」の20で平尾さんがふれたので、  
それなら当事者である田中さんに書いてもらおうということになったのです。田中さ  
んについては、以前から知ってはいましたが、運  
動や仕事で特に親しくしたこともありませんで  
したが、社会党がなくなって社民党になり、溝口  
さんの選挙をいっしょにとりくむようになって  
からこ〜い関係になりました。人なつっこくて、  
気さくで、タイガースとタバコと社民党が大好き  
で、にくめないキャラです。



さて、前置きはおくとして、36年前の「ともしび事件」では、「無知は差別であ  
る」とか「足を踏まれた者の痛みは踏まれた者にしかわからない」といったことばが  
投げかけられ、それまで部落問題に無関心であった人たちを否応なしに向きあわせた。  
1970年は豊中支部が再建されて3年目で、同じ年には「田辺事件」や「桜塚高校  
差別事件」が、前の年には豊中高校差別事件があり、これらに対するとりくみがおこ  
なわれていた時期だ。解放同盟支部の再建とともに差別事件が続発したように見える  
が、差別事件というのはいつの時代にもあるが、それが明るみにでて問題となるため  
には、それを指摘する者が不可欠で、その条件がそろった時期だった。

だから、解放同盟は燃えていたし、これを受ける側（田中さんや市職員組合）はとまどっていたことは想像にかたくない。しかし、指摘から1カ月あまりという速さで「臨時号」が出され、「差別者であることの認識から新しい自己の創出を」という流れになっていった。ともあれ「ともしび事件」は、豊中における部落解放運動がひろがる大きな節目になり、その「財産」は今も引き継がれている。

しかし、「回収は正しかったか」「表現の自由を守ることとの関わりは」といった意見や、「痛みは踏まれたものでしかわからない」との指摘についてどんな議論があったのだろうかと思う。部落問題についての無知を、差別をする側であることをただされて、なお対等な議論が成立する余地はなく、反省と対策が先行し、結果、問題点や疑問は浮上することなくうもれたままになったのだろうか？

「部落の解放なくして労働者の解放なし」「労働者の解放なくして部落の解放なし」とよくいわれ、それをめざして誠実にとりくまれてきたが、それは田中さんが言うところの「私にとって部落問題とは」を地でいくものとはなりきらず、おつきあいの域を出るか出ないかぐらいの程度だったのかもしれない。

ぼちぼちまとめよう。今は36年前のように無知や差別者であるとなじられることはなくなり、部落解放・人権確立を求めるなかまとしてつながっている、これが変わったことだ。しかし、部落問題は部落の人たちの問題であるが、そこに自分が差別者としてある問題という枠組みが続いている、これが変わらないことだ。しかし、少なくとも田中さんが変わったことはまちがいないし、それが今の田中さんにつながっている。それだけでも解放運動ってすばらしいと思う。



さて、ここで次の人は？となるのですが、今のところ予定はありません。だから、書いてみようという人があればぜひ、おねがいしたい。また、こちらから突然、声をかけることがあるかもしれませんが、その際にはぜひ引き受けていただくようお願いしておきます。



# うんえいいいんかい いま・・・ 運営委員会では、今…

## だい かいしふ たいかい 1. 第40回支部大会について

し ふ たいかい じゅんび  
支部大会の準備をすすめています。ことし  
かい ふしめ なに きねん  
は40回という節目でもあり、何か記念にな  
かんが うんえいいいん  
るものをと考えています。また、運営委員の  
せんきよ あたら りっこうほ  
選挙もありますので、ぜひ新しい人が立候補  
おも はじ し ふ  
してほしいと思います。6月初めには支部  
しゅうかい  
集会をおこないます。



たいかい  
大会は、6月25日（日）あさ10じ～です。

## さ やまとうそう 2. 5. 23 狭山闘争について

いしかわ かすお ふとう たいほ ねんめ  
石川一雄さんが不当逮捕されて43年目の5  
とうきょうこうさい だいさんじさいしん せいきゅう  
月23日に、東京高裁に第三次再審を請求しま  
こんど さいしん むざい  
す。今度こそ、再審・無罪をかちとりましょう。  
とよなか しみん さんか  
豊中・市民アピール・デーに参加ください。



いなり やまこうえんしゅうごう とどろ き こうえん  
5月22日（月） 6じ 稲荷山公園 集合→ 轟木公園までデモ  
がくしゅうかい じんけん  
7じ 学習会（人権まちづくりセンター）  
わたし さやまじけん だいさん じ か  
「私と狭山事件～第三次を勝つために～」  
かわばたもと き さやまべんごだん  
はなし：川端元樹さん（狭山弁護団）

## なつ 3. 「夏まつり」について

ことし こくめいしょうがっこう てつた さんか  
今年は克明小学校で7月22日（土）におこないます。みんなのお手伝いと参加  
をおねがいします。

# か つ ど う よ て い

日	曜	とりくみ	じかん	ばしょ
7	日	親と子のあつまり	10時	住宅集会所
8	月	園芸サークル	9時30分	いこいの家
		ヨガサークル	10時	いこいの家
		カラオケサロン	1時30分	いこいの家
		パソコンサークル	2時	人権まちづくりセンター
		志の山会	4時	いこいの家
9	火	楽しいピンポン	10時	人権まちづくりセンター
		「世人権」事務局会議	10時	人権まちづくりセンター
		トークマインド	10時	箕面スパーガーデン
		おどりサークル	6時	いこいの家
		企業組合記帳指導	7時	人権まちづくりセンター
10	水	なかよし会(ペン字)	10時	人権まちづくりセンター
		太極拳同好会	10時	いこいの家
		カラオケ同好会	1時30分	いこいの家
		中国文化同好会	7時	いこいの家
		保育教育協議会	7時	人権まちづくりセンター
11	木	さわやか体操	9時45分	いこいの家
		フラワーズ	1時30分	いこいの家
		よみかききょうしつ	7時30分	人権まちづくりセンター
		木曜サロン	1時30分	人権まちづくりセンター
		パソコンクラブ	6時30分	人権まちづくりセンター
12	金	参加型食事会	9時30分	人権まちづくりセンター
		楽々工房「ほっとス」	1時30分	いこいの家
		民謡サークル	5時	いこいの家
		「協会」評議員会	7時	人権まちづくりセンター
13	土	おどりサークル	1時30分	いこいの家
		府連委員会	3時	大阪人権センター
		支部運営委員会	7時30分	人権まちづくりセンター

人権相談は、 毎週火・木・土 ごご1～5時 人権まちづくりセンター

進路相談は、 毎週月・水・金 ごご5～7時 人権まちづくりセンター



